

令和5年度 61回生 授業概要（シラバス）

科目名	日常生活援助技術Ⅰ (環境)	分野/教育内容	専門分野/基礎看護学	
開講年次・時期	1 年前期 令和 5 年 4 月 20 日	単位数/時間	1 単位/30 時間 本科目は以下の 2 単元で構成される ①環境               : 12 時間 ②活動と休息 : 18 時間	
担当講師名	村井 優子	所属・役職	宮古高等看護学院・専任教員	
		資格・免許	看護師	
授業の概要	看護の対象の療養環境を正確に把握し、清潔で安全・安楽な環境を整え、対象が心地よく療養できる援助方法について学ぶ			
到達目標	1. 療養生活の環境を構成する要素と病室・病床の環境調整の方法を理解する 2. 清潔で安全な寝心地のよいベッドを提供するための技術を習得する			
事前学習内容	テキストの該当ページを読み、事前学習した上で授業に臨むこと ※第 1 回は事後学習で構わない			
成績評価の方法	・筆記試験による評価 (40 点) ・授業態度 (著しく悪いときは減点対象とする) ※「活動と休息」と合わせて 100 点満点中 60 点以下の場合は再試験の対象となる			
使用テキスト	①系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2023. ②看護技術プラクティス, 学研メディカル秀潤社, 2021. ③学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術, 医学書院, 2021.			
授業回数	授業概要(主な学習内容)		テキスト	授業形態
第 1 回	環境調整の意義と援助の目的 療養環境を構成する要素		① : p 10～18 ② : p 10～13	講義
第 2 回	療養環境を調整する視点, ベッドメイキング		① : p 18～21 ③ : p 42～49	講義
第 3・4 回	ベッドメイキング		① : p 22～25, 476	演習
第 5 回	ベッド周囲の環境整備, リネン交換		① : p 18～26, 476 ② : p 14～16	講義・GW
第 6 回	臥床でのリネン交換		① : p 25～26, 476 ② : p 16	演習
履修上の留意点	・質問には、はっきりとした反応を示すこと ・第 3・4、6 回の授業は、身だしなみを整えて演習に臨みましょう ・演習内容で分からないことや確認したいことは、その場で相談しましょう ・看護技術を習得できるように、授業以外でも積極的に自主練習に取り組みましょう			

令和5年度 61回生 授業概要(シラバス)

科目名	日常生活援助技術Ⅰ (活動と休息)	分野/教育内容	専門分野/基礎看護学
開講年次・時期	1年前期 令和5年5月	単位数/時間	1単位/30時間 本科目は以下の2単元で構成される ① 環境 : 12時間 ② 活動と休息 : 18時間
担当講師名	村井 優子	所属・役職	宮古高等看護学院・専任教員
		資格・免許	看護師
授業の概要	対象の日常生活を整える援助における活動と休息の必要性を理解し、日常生活援助技術を習得する		
到達目標	1. 姿勢の基礎知識、ボディメカニクスの原理を理解し、活用できる 2. 対象の活動を促す援助の方法を理解できる(歩行の援助、体位変換、車椅子およびストレッチャーの移乗・移送) 3. 睡眠と休息の必要性を理解し、睡眠と休息を促す援助の方法を理解できる		
事前学習内容	解剖学Ⅰで学習した、筋・骨格に関連する内容		
成績評価の方法	・筆記試験による評価(60点) ・授業態度、演習の参加状況、提出物の提出状況(悪いときは減点対象とする) ※環境と合計100点中60点未満の場合は、両単元が再試験の対象となる		
使用テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2023. 2. 看護技術プラクティス, 学研メディカル秀潤社, 2021. 3. 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術, 医学書院, 2021.		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第1回	活動の意義、基本体位、活動のアセスメント		講義
第2回	廃用症候群、ボディメカニクス、体位変換の援助①		講義・演習
第3回	体位変換の援助②		講義・演習
第4回	ポジショニングの援助		講義・演習
第5回	歩行の援助		講義・演習
第6回	ベッド⇄車椅子の移乗の援助		講義・演習
第7回	車椅子およびストレッチャーの移送の援助		講義・演習
第8回	睡眠・休息の意義と睡眠障害		講義
第9回	睡眠・休息の援助		講義・演習
履修上の留意点	・本単元の授業形態は演習であるため、グループメンバーと協力して技術習得に努めること ・演習時、ベッドからの転落や移送時の転倒がないよう安全には十分に注意すること ・演習時には事前に身だしなみを学生どうしでチェックすること ・上記の授業概要(主な学習内容)は授業の進捗状況次第で変更の可能性がある		

令和5年度 61回生 授業概要(シラバス)

科目名	日常生活援助技術Ⅱ（清潔・衣生活）	分野/教育内容	専門分野/基礎看護学
開講年次 時期	1 年前期 2023 年 5 月 26 日	単位数/時間	1 単位/30 時間
担当講師名	畠山 千章	所属・役職	専任教員
		資格・免許	看護師
授業の概要	身体各部や衣類の清潔が生体や精神に及ぼす影響、援助時の看護の役割を理解し、対象の状態に合わせた援助技術について学ぶ。		
到達目標	1. 衣生活・清潔の意義を理解できる 2. 演習を通して、基礎的な看護技術の原理原則を理解できる 3. 対象の安全・安楽に配慮した実践方法を習得できる		
事前学習 内容	第 1 回目の授業に向けての課題（5 月 25 日 8 時 50 分提出） ①皮膚・粘膜の構造と機能について ②清潔援助の目的・効果について 第 2 回目以降は、都度事前学習課題を提示します		
成績評価の 方法	1. 終講試験による評価 2. 課題の提出状況（提出期限の遅れや内容の不足は終講試験の結果から減点） 3. 出席状況（学則に準ずる）		
使用教科書	1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ（第 18 版第 2 刷、医学書院） 2. 看護技術プラクティス（第 4 版第 1 刷、学研メディカル秀潤社）		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	清潔・衣生活の意義		講義  

科目名	日常生活援助技術Ⅲ (食生活・栄養)	分野/教育内容	専門分野/基礎看護学
開講年次・時期	1年前期 令和5年8月21日	単位数/時間	1単位/30時間 ① <u>食生活・栄養</u> 15時間 ② 排泄 15時間
担当講師名	村井 優子	所属・役職	宮古高等看護学院 専任教員
		資格・免許	看護師
授業の概要	食事の意義、食事制限や食事を摂取する機能の障害が対象に及ぼす影響を理解し、対象に適した食事援助の方法を習得する		
到達目標	1. 食事の意義を理解できる 2. 栄養・食事に関するアセスメントを理解できる 3. 対象に合わせた食事介助の方法と留意点を理解できる 4. 栄養摂取方法の種類を理解できる		
事前学習内容	消化器系の構造と機能、消化と吸収について既習事項を確認すること		
成績評価の方法	・終講試験（「排泄」と合わせて100点） ・受講態度不良の場合や課題の提出期限の遅れがあった場合は終講試験の結果から減点		
使用テキスト	①系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2023. ②看護技術プラクティス，学研メディカル秀潤社，2021. ③学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術，医学書院，2021.		
授業回数	授業概要（主な学習内容）		授業形態
第1回	食事の意義、食事に関連する生理学的メカニズム		講義
第2回	栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント		講義
第3回	医療施設における食事の特徴、食事介助方法		講義
第4・5回	食事介助演習		演習
第6回	摂食・嚥下訓練、非経口的栄養摂取方法		講義
第7回	経管栄養法		演習
履修上の留意点	・演習には真摯な態度で臨み、技術習得に精進すること ・分からないことをそのままにせず、疑問を解決するための行動を積極的にとること ・食事介助の演習は、各自の弁当を使用し昼食として実施する予定		

令和5年度 61回生 授業概要（シラバス）

科目名	日常生活援助技術Ⅲ (排泄)	分野/教育内容	専門分野/基礎看護学
開講年次・時期	1 年前期 令和5年10月2日	単位数/時間	1 単位/30 時間 ① 食生活・栄養：15 時間 ② 排泄：15 時間
担当講師名	村井 優子	所属・役職	宮古高等看護学院 専任教員
		資格・免許	看護師
授業の概要	排泄の意義、排泄が生体や精神に及ぼす影響を理解し、排泄に援助が必要な対象への援助方法を習得する		
到達目標	1. 排泄の意義を理解できる 2. 排泄が生体や精神に及ぼす影響と排泄に関するアセスメントを理解できる 3. 排泄援助の目的や留意点を理解し、援助方法を習得できる 4. 排泄障害のある対象への援助方法を習得できる		
事前学習内容	消化器系の構造と機能、排泄について既習事項を確認すること		
成績評価の方法	・終講試験（「食生活・栄養」と合わせて100点） ・受講態度不良の場合や課題の提出期限の遅れがあった場合は終講試験の結果から減点		
使用テキスト	①系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2023. ②看護技術プラクティス，学研メディカル秀潤社，2021.		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第1回	排泄の意義としくみ、排泄のアセスメント		講義
第2回	自然排尿および自然排便の介助の実際		講義
第3回	ポータブルトイレでの排泄の援助		演習
第4回	便器・尿器を使用したベッド上排泄の援助		演習
第5回	排尿・排便障害時の介助の実際		講義
第6回	浣腸・摘便		演習
第7回	一時的導尿		演習
履修上の留意点	・分からないことをそのままにせず、疑問を解決するための行動を積極的にとること ・演習には真摯な態度で臨み、技術習得に精進すること ・看護技術を習得できるように、授業以外でも積極的に自主練習に取り組むこと		